

4月26日「世界知的財産の日」と WIPO日本事務所のユース(若者)向けの取り組み

世界知的所有権機関 (WIPO) 日本事務所

4月26日は「世界知的財産の日 (World IP Day)」である。World IP Dayの和訳は長年「世界知的所有権の日」が用いられていたが、知的所有権ではなく「知的財産権」を用いると定めた知的財産戦略大綱の策定から20周年となる本年に和訳を再検討し、「世界知的財産の日」に変更した。2022年の「世界知的財産の日」のテーマは「IP and Youth: より良い未来のためのイノベーション」。ユース(若者)に焦点を当て、若者が主導するイノベーションと創造性を称え、持続的な未来へシフトするために必要な新しいソリューションをもたらす若者の大いなる可能性を祝うために実施される。

本稿では、今年の「世界知的財産の日」のテーマにちなみ、WIPO日本事務所の若者を対象とした取り組みを紹介する。

「世界知的財産の日」記念オンラインイベント

WIPO日本事務所では、毎年「世界知的財産の日」を記念するイベントを実施してきた。コロナ禍となる以前はシンポジウム等をリアル開催していたが、2021年からはオンライン形式で行っている。昨年は柵山正樹氏(三菱電機株式会社取締役会長(当時))、新浪剛史氏(サントリーホールディングス株式会社 代表取締役社長)、久保雅一氏(株式会社小学館 取締役/株式会社小学館集英社プロダクション 常務取締役)、伊佐山元氏(WiL, LLC 共同創業者兼CEO)など各界で活躍されている方々からの講演、パネルディスカッション(右写真)、知財教育に力を注ぐ学生やWIPO賞を受賞した学生のインタビュー等からなる記念オンラインイベントを開催。当日までに1000人以上の登録があり、多くの方に視聴いただいた。

2022年も昨年と同様に4月26日(火)に記念オンラインイベントを開催予定であり、特設ウェブサイト^{*1}も公開している。プログラムの詳細は追って発表予定だが、現時点では、

慶應義塾大学名誉教授であり世界経済フォーラム(ダボス会議)理事でもある竹中平蔵氏に基調講演をいただく予定である。2021年11月に開催したウェビナー^{*2}でも竹中氏のインタビューを紹介したが、そのなかで若者に向けた「Compasses over maps」(地図よりも自らの羅針盤を持って)とのメッセージに多くの視聴者から反響をいただいた。基調講演では、その言葉をより深め、パッションを持って自らチャレンジする勇気を若者に授けるようなお話をお願いしている。また、「出る杭を伸ばせ!」と知財・創造性教育を進める東海大学学長の山田清志氏や、1904年の創立以来100年以上にわたり、一貫して児童・学生らへの発明の奨励および知的財産権制度の普及に努め、わが国科学技術の進歩・発展に貢献してきた一般社団法人発明推進協会の会長、岩井良行氏による基調講演も予定している。

2022年のテーマである若者・学生から、その教育者、そして子どもを持つ親にも関心を持っていただけるよう、知的財産制度が世界のイノベーションに果たしてきた役割や将来への期待を分かりやすく伝えるとともに、若手起業家や発明家からのメッセージ、WIPO賞受賞者インタビュー、「捕まるよ、マジで」で知られる一般社団法人日本民間放送連盟(民放連)による著作権啓発CMの製作者にも参加していただく



予定である。知財関係者や産業界、日本政府関係者はもとより、教育者や学生にも多く視聴していただきたい。

WIPOアカデミーとのワークショップ

WIPO日本事務所は2021年6月1日から4日にわたり、WIPOの知財教育、研修および能力構築に係る事業を担当するWIPOアカデミーと共同で、IP4Youth&Teachersプロジェクトの一環として、若者への知財教育方法に関するワークショップをオンライン形式で開催した^{*3}。

本ワークショップは教育政策立案者や教員を中心とした知財教育に携わる幅広い教育実務者を対象とし、参加国政府の推薦により、カンボジア、インドネシア、日本、ラオス、ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナムから計44人が参加。「若者の創造性とイノベーションの育成における知的財産教育の役割」「学校で創造性と知的財産を教える際の方法的アプローチ」「創造性を発揮するためのツールとしてのTRIZ (Theory of inventive problem solving)」等のテーマが取り上げられ、これらを踏まえてワークショップ終了後には、参加者から創造性や知的財産に関する授業またはビジネスケースの提案、あるいは創造性に関するカリキュラムの提案が行われた。

知財テキスト『アイデアを伸ばそう』

創造力と創造への尊重の重要性を分かりやすく伝えるために、WIPO日本事務所は『アイデアを伸ばそう』という教育本を作成した。これは安藤百福^{ももふく}によるインスタントラーメンの発明を例に、創造的思考の重要性、および、世界中の人々にインスタントラーメンが広がるために欠かせなかった知的財産の役割を平易に解説したものである。

また、読者が創造力を育み、知的財産を活用する実践ができる構成となるよう工夫した。本書は、生徒、知的財産についての初学者、創造力や知的財産を教える教育者を対象としており、WIPO日本事務所のウェブサイト^{*4}から英語版を

無料でダウンロードできるので、ぜひご活用いただきたい（日本語版冊子は発明推進協会から発行されている）。また、指導者・教育者向けに『アイデアを伸ばそう』を使って授業を行う際のガイドブック（ティーチングノート）も日本語版と英語版を無料で公開している。

また、テキストの内容をより現場に即した形にバージョンアップするため、令和3年度は本書およびティーチングノートをういた授業を高校で実施し、生徒の理解度の測定や指導者からのフィードバックを得る調査事業を行った。本調査の結果は日本語・英語で本年度公開するとともに、結果に応じてテキストのバージョンアップを適宜実施する計画である。

WIPO賞

WIPOでは、加盟国の知財庁から提出された要請に基づき、発明家、クリエイター、革新的な企業の業績等に賞を贈る「WIPO National Awards Program」を実施している^{*5}。これは、青少年や学生・若者を含む社会のあらゆるレベルでイノベーションや創造が奨励され、また、評価される土壌の育成を目的とした取り組みである。現在、日本では、特許庁の推薦に基づき、以下の2つの表彰事業を後援するとともに、優れた応募作品に対してWIPO賞を授与している。

○全日本学生児童発明くふう展

全日本学生児童発明くふう展^{*6}は、公益社団法人発明協会が主催し、次代を担う青少年に創作する喜びと発明くふうの楽しさを体得させ、その優れた発明くふう作品を顕彰することにより、創造性豊かな人格形成を目指すことを目的として、1941年から開催されている歴史あるコンクールである。各地域の発明くふう展等に出品された作品から優秀な成績を収めた推薦作品等より、恩賜記念賞1作品および内閣総理大臣賞をはじめとする13の特別賞が選定される。WIPOでは、本コンクールの趣旨に賛同し、1981年から特別賞の一つとしてWIPO賞を提供している。

WIPO日本事務所は審査委員会に参加しており、令和3年

度の第80回大会では、高崎市立北部小学校5年、新井結仁^{ゆいと}さんの作品で、視覚障害者の駅ホームでの転落事故を防ぐことを目的とした「転落防止！音のカーテン」をWIPO賞に選定した。この作品は、直線的な音を出す「パラメトリックスピーカー」で駅ホームの点字ブロック手前に指向性の高い音のカーテンを作るとともに、磁石が付いた白杖^{はくじょう}により点字ブロック下に埋め込んだリードスイッチを反応させて駅ホーム柱のLEDを点滅させることで周囲の方に警告を出す、という仕組みを実現するものである。

○パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト

パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト^{*7}は、文部科学省、特許庁、日本弁理士会、独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）の4機関により主催される表彰事業であり、日本の次世代を担う高校生、高等専門学校生、大学生、専修学校生および大学校生を対象としている。自ら考え出した発明またはデザイン（意匠）のうち優秀なものについては優秀賞（出願支援対象）として表彰するとともに、実際に特許庁への出願を支援することで、特許権または意匠権を取得する手続きを実体験できるものである。

WIPOは令和2年度より後援機関となり、令和3年度にはSDGsの達成に寄与する発明・創作に対し、WIPO賞が初めて選定された。これから出願される予定であるため詳細は説明できないが、パテントコンテストでは秋田県立秋田工業高等学校の武田璃乃杏^{りのあ}さん、鎌田妃陽里^{かまたひより}さん、阿部成翔^{なう}さんの発明である「牛乳パック切断装置」、デザインパテントコンテストではサレジオ学院高等学校の山下新太^{しんた}さんのデザイン創作である「ユニバーサルデザインの筆記用具」がWIPO賞に選ばれている。

中学・高校・大学での講演

WIPO日本事務所では、全国各地の学校を訪問し、あるいはオンラインツールを活用して、イノベーションと知的財産の重要性を伝えていくための講演活動を積極的に行ってい

る。2021年以降、九州大学、日本大学、筑波大学、山口大学、大阪工業大学、博多工業高校、中央大学附属高等学校、常総学院中学校の学生・生徒に向けて講演を行った。

「新たな時代に向けて ～イノベーションに資する知的財産、グローバルな市場を拓く～」のテーマで行った講演（一部の学校を除く）では、かつてはいずれも中小企業であったGAFAsが発明や知的財産を生かし、イノベーションにつなげてきた現状を紹介しつつ、新たな時代に向けて、洞察力が求められるイノベーションの在り方や、一層の連携が求められるオープンイノベーションの必要性、さらにSDGsの実現に向けた環境とビジネスの両立について、知的財産の視点を交えながら説明した。講演には、多くの学生・生徒が参加し、活発な質疑応答が行われたほか、後日、講演に対する感想文が多く寄せられた。2022年には、これらの活動に加え、学生向けのウェビナーの開催も企画している。WIPO日本事務所の今後の活動に注目していただきたい。

- ※1 WIPO日本事務所主催「世界知的財産の日2022」記念イベント特設ウェブサイト：
https://www.wipo.int/meetings/ja/2022/wjo_ipday.html#
- ※2 WIPO日本事務所ウェビナー：
https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/webinars_in_japanese.html
- ※3 関連するWIPO日本事務所ウェブサイト：
https://www.wipo.int/academy/ja/news/2021/news_0017.html
- ※4 「アイデアを伸ばそう」（WIPO日本事務所ウェブサイト）：
https://www.wipo.int/about-wipo/ja/offices/japan/outreach/ip_textbooks.html
- ※5 WIPO National Awards Program（英語）：
<https://www.wipo.int/ip-outreach/en/awards/>
- ※6 全日本学生児童発明くふう展：
http://koueki.jiii.or.jp/hyosho/gakusei/gakusei_yoko.html
- ※7 パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト：
<https://www.inpit.go.jp/patecon/>